

【注意】

下記に当てはまる場合は、マンモグラフィ検診を受けることができません。
お申し込みの際には必ずご確認ください。

① 6ヵ月以内に乳房にしこりや異常な乳頭分泌物などの自覚症状のある方

・上記のような症状のある方は再検査になる可能性が高いため、早期に医療機関を受診していただき、適切な検査（マンモグラフィだけでなく、視触診・エコー検査・細胞診検査・組織検査など）を受けていただくことをお勧めします。

② 妊娠の可能性のある方・妊娠中の方

・マンモグラフィの撮影にはX線（レントゲン）を使用するため、胎児に影響を与える可能性がゼロとはいえません。

③ 出産後2年以内の方・授乳中又は断乳直後で乳汁分泌がある方

・乳腺が発達しているため、乳房全体が白く写り、マンモグラフィ検診の判定に必要な情報が得にくくなってしまいます。（マンモグラフィでは、乳腺は白く写り脂肪は黒く写ります。）

・乳汁等の分泌物により、撮影装置が故障する可能性があります。（故障した場合、その後の検診が続行不可能になります。）

④ 10年以内に乳がんの既往のある方

・温存手術をした場合、その後のマンモグラフィ画像に、ねじれ、ゆがみ、などが出してしまうためマンモグラフィ検診の判定ができません。

・乳房切除をしている方は、対側との比較ができません。

※手術をされた方は手術をした医療機関でマンモグラフィを撮影し、術後のマンモグラフィと比較していただく事をお勧めします。

⑤ 乳腺疾患（乳腺症・線維腺腫・のう胞・微小石灰化 等）があり医療機関で治療・経過観察中の方

・集団検診の場合、以前のマンモグラフィと比較することが出来ず、再検査の可能性が高くなり二度手間になる可能性が高くなります。

・すでに診断がついている方は、主治医を受診することにより以前の資料との比較ができ、治療等が速やかに進みます。

⑥ ペースメーカーと植え込み型除細動器を挿入されている方

- ・内外斜位（斜め）方向撮影は直接ペースメーカーにX線（レントゲン）が照射されるため、不具合が起きる可能性があります。
- ・乳腺を引き出したり、広げたりする過程でペースメーカーを挟み込んだり、ペースメーカーの位置がずれたりリード線に支障をきたす恐れがあります。

⑦ 脳室―腹腔シャントが造設されている方

- ・乳腺を引き出したり、広げたりする過程でチューブを挟み込んだり、チューブの位置がずれたり、破損したりして治療に支障をきたす恐れがあります。

⑧ 豊胸手術（脂肪注入・ヒアルロン酸注入・シリコンバッグ等）をしている方 （除去後も受診不可）

- ・乳房内留置バック（内部のシリコンや生理食塩水など）を破損する可能性があります。
- ・周辺の乳腺を広げて撮影できないため、マンモグラフィ検診の判定に必要な情報が得にくくなってしまいます。

⑨ 前胸部静脈ポート留置をしている方

- ・乳腺を引き出したり、広げたりする過程でチューブ（カテーテル）を挟み込んだり、チューブ（カテーテル）の位置がずれたり、破損したりして治療に支障をきたす恐れがあります。

⑩ 胸部外傷（肋骨骨折・打撲等）があり、外傷による痛みなどの症状がある方

- ・外傷による痛みなどの症状があると周辺の乳腺を広げて撮影できないため、マンモグラフィ検診の判定に必要な情報が得にくくなってしまいます。
- ・症状を悪化させる恐れがあります。

⑪ 極度に背骨が湾曲している方

- ・乳房を挟むことができないため、マンモグラフィの撮影ができません。

⑫ 独歩不能（真っ直ぐに立っている事が出来ない方）

- ・マンモグラフィ撮影時には、一人で立ち、一定の体勢を維持していただく必要があるため撮影ができません。

※その他、インスリンポンプ・持続グルコース測定器を装着中で、当日、ご自身で取り外しができない場合は、検診を受けることができません。

